

平成 22 年度

町田市シルバー人材センター「健康・生活アンケート」結果報告(案)

アンケート実施期間：22 年 1 月 18 日～2 月 22 日

目次

1. アンケート概要.....	2
1) 配布対象者	
2) 回答者	
2. 就業状況概要	3
1) 第 5 回アンケート配布対象者における就業状況	
2) 第 1 回～第 5 回アンケート配布対象者における就業状況	
3. 就業量別にみた会員であることをどう思っているかの変化	4
1) 「あてはまらない」と回答した会員の変化 (銀齢だより第 184 号 2)	
2) 「あてはまる」と回答した会員の変化	
4. 就業量別にみた会員の変化.....	14
1) 就業量別にみた会員の介護状態となる危険性の変化 (銀齢だより第 184 号 1)	
2) 就業量別にみた会員の運動機能低下の危険性の変化	
3) 就業量別にみた会員の低栄養の危険性の変化	
4) 就業量別にみた会員の口腔機能低下の危険性の変化	
5) 就業量別にみた会員の閉じこもりの危険性の変化	
6) 就業量別にみた会員の認知症の危険性の変化	
7) 就業量別にみた会員のうつの危険性の変化	
8) 就業量別にみた会員の生活機能の変化	

平成 18 年度から継続されています会員対象の「健康・生活アンケート」、第 5 回アンケートの結果をご報告いたします。ご協力ありがとうございました。

アンケート結果の積み重ねから、健康状態やセンター会員であることについての感じ方に就業が与えている影響が明らかになってきました。今後もアンケートを継続していくことで、就業やその他のセンター活動が会員に与える影響をより詳細に明らかにしていきたいと思えます。

1. アンケート概要

第 5 回アンケートは、会員全数 3,604 人 に対して配布し、2,656 人 (73.7%) から回答を得ることができました。2,656 人 の回答のうち、有効回答は 2,514 人 でした。

1) 配布対象者

3,604 人

- ・性別 男性 2,638 人 (73.2%) 女性 966 人 (26.8%)
- ・年齢 60 歳～95 歳 平均 71.6 歳

	人数(%)						
	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85歳以上	合計
男性	158 (6.0)	724(27.4)	991(37.6)	557(21.1)	169(6.4)	39(1.5)	2,638(100)
女性	104(10.8)	303(31.4)	345(35.7)	169(17.5)	38(3.9)	7(0.7)	966(100)
全体	262 (7.3)	1,027(28.5)	1,336(37.1)	726(20.1)	207(5.7)	46(1.3)	3,604(100)

2) 回答者

2,656 人 (73.7%) うち、有効回答 2,514 人 (69.8%)

- ・性別 男性 1,866 人 (74.2%) 女性 648 人 (25.8%)
- ・年齢 60 歳～95 歳 平均 71.7 歳

	人数(配布対象あたりの%)						
	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85歳以上	合計
男性	92 (58.2)	502(69.3)	732(73.9)	400(71.8)	121(71.6)	19(48.7)	1,866(70.7)
女性	72 (69.2)	204(67.3)	242(70.1)	102(60.4)	23(60.5)	5(71.4)	648(67.1)
全体	164 (62.6)	706(68.7)	974(72.9)	502(69.1)	144(69.6)	24(52.2)	2,514(69.8)

表 3 第 1 回 (平成 18 年 1 月) ～第 5 回アンケート配布数と有効回答数

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回(今回)
配布数	3,510	3,253	3,369	3,389	3,604
有効回答数(%※)	2,222 (63.3)	2,159 (66.4)	2,166 (64.3)	2,258 (66.6)	2,514 (69.8)

※ 母数は各回の配布数

2. 就業状況概要

第5回アンケートの配布対象者 3,604人のうち、平成18年1月から平成21年12月までの4年間に1回以上就業した会員は 3,029人で84.0%でした。

第1回アンケートと第5回アンケートの配布対象者、つまり、4年間在籍していた会員 2,141人のうち、4年間に1回以上就業した会員は1,983人で92.6%でした。

1) 第5回アンケート配布対象者 (3,604人) における就業状況

- ・平成18年(1年間) 2,012人(55.8%)
- ・平成19年(1年間) 2,195人(60.9%)
- ・平成20年(1年間) 2,368人(65.7%)
- ・平成21年(1年間) 2,698人(74.9%)
- ・平成18年～21年(4年間) 3,029人(84.0%)

平成18年～21年(4年間) 就業者概要

- ・性別 男性2,247人(74.2%) 女性782人(25.8%)
- ・年齢 60歳～95歳 平均72.0歳

表4 就業者における性別の年齢分布 人数(表1 配布対象あたりの%)

	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85歳以上	合計
男性	106(67.1)	582(80.4)	875(88.3)	502(90.1)	150(88.8)	32(82.1)	2,247(85.2)
女性	70(67.3)	234(77.2)	297(86.1)	140(82.8)	34(89.5)	7(100)	782(81.0)
全体	176(67.2)	816(79.5)	1,172(87.7)	642(88.4)	184(88.9)	39(84.8)	3,029(84.0)

2) 第1回～第5回アンケート配布対象者 (2,141人) における就業状況

- ・平成18年～21年(4年間) 1,983人(92.6%)
 就業者配分金額^{※1} 14.8円～132,762.7円 中央値 26,412.4円^{※3}

男性 75歳未満 (913人)	14.8円～132,762.7円	中央値 32,322.5円
男性 75歳以上 (606人)	14.8円～99,636.4円	中央値 26,077.8円
女性 75歳未満 (307人)	14.8円～130,573.0円	中央値 13,614.9円
女性 75歳以上 (157人)	14.8円～108,974.0円	中央値 13,140.5円
- ・平成20年～21年(2年間) 1,844人(86.1%)
 就業者配分金額^{※2} 12.9円～130,944.0円 中央値 27,572.3円

男性 75歳未満 (844人)	31.3円～130,944.0円	中央値 34,248.6円
男性 75歳以上 (561人)	19.2円～97,115.6円	中央値 25,917.5円
女性 75歳未満 (292人)	17.0円～120,342.8円	中央値 14,979.4円
女性 75歳以上 (147人)	12.9円～89,634.4円	中央値 15,314.6円

※1 4年間の月間平均金額

※2 2年間の月間平均金額

※3 中央値：就業者配分金額を小さい順に並べたとき中央に位置する値

就業の量の目安として、配分金額をもとに3つの群(0円の群、少ない群、多い群)を設定しました。就業の少ない群と多い群については、全体、男性(75歳未満・75歳以上)、女性(75歳未満・75歳以上)、それぞれ上記の4年間または2年間の中央値の金額をもとに設定しました。

3. 就業量別にみた会員であることをどう思っているかの変化

第3回（平成20年1月）のアンケートから新たに、会員の皆様がセンター会員であることをどう思っているかについてお尋ねしています。今回は、第3回と第5回のアンケートへの回答をもとに、2年間の就業の程度と回答の関係を検討しました。

1) 「あてはまらない」と回答した会員の変化

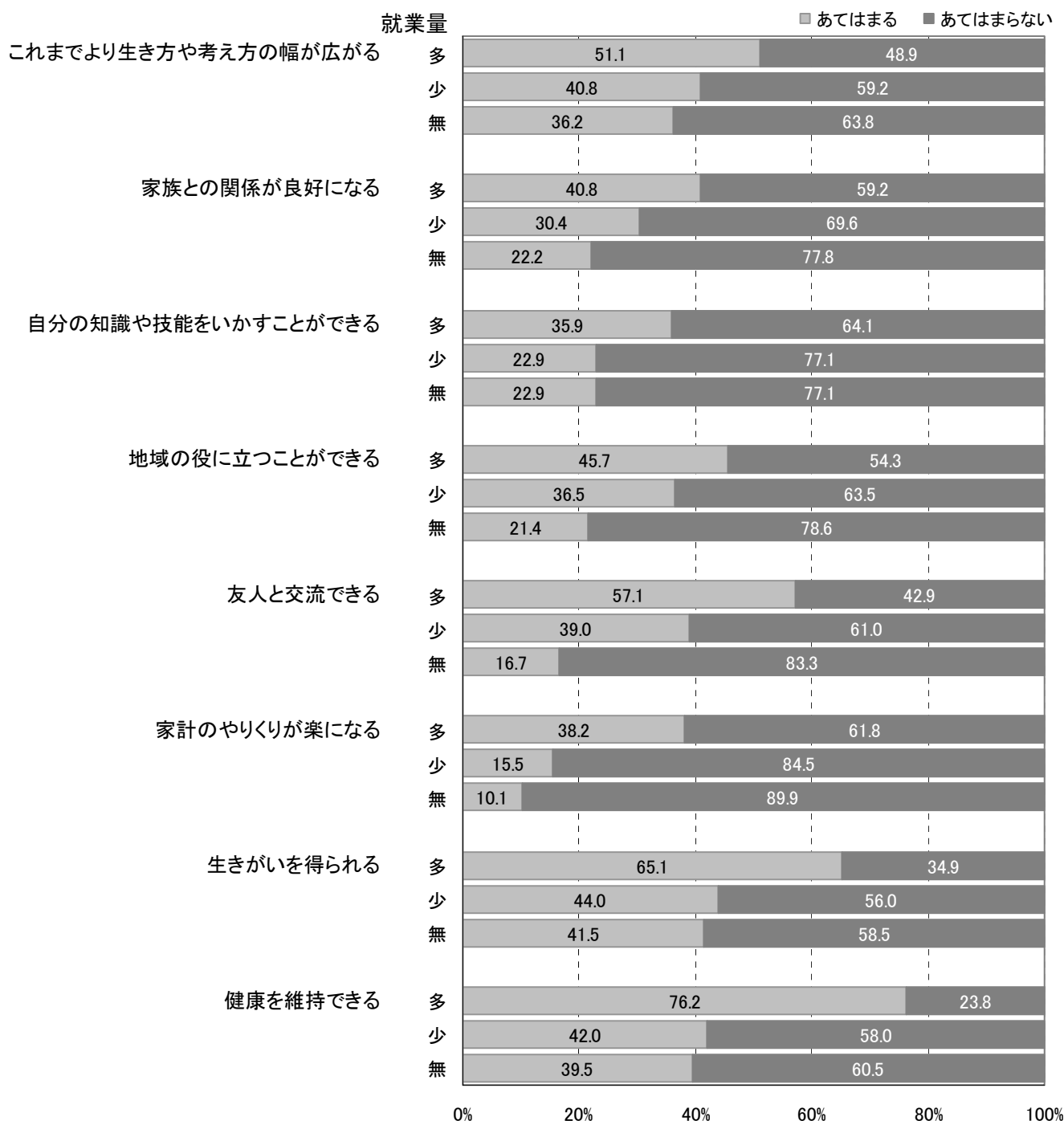
2年前（第3回）に「あてはまらない」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

会員全体について分析した結果、すべての項目で、就業している会員の方が、「あてはまる」という回答に統計的に有意に変化していました。

図1 2年前に「あてはまらない」と回答した会員の変化*

会員全体

(n=183~791人**~***)



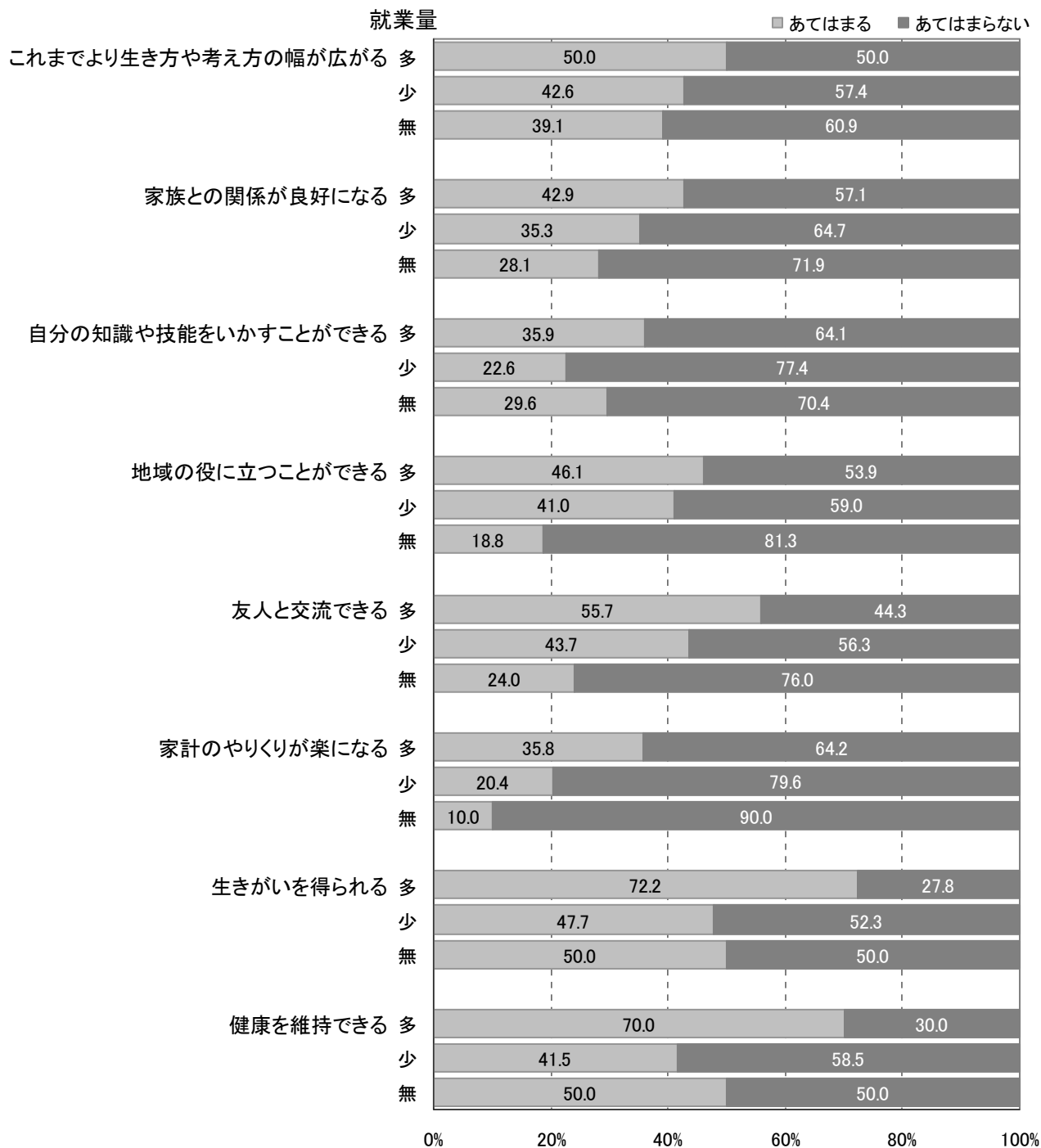
2年前（第3回）に「あてはまらない」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳未満の男性会員について分析した結果、「自分の知識や技能をいかすことができる」「友人と交流できる」「家計のやりくりが楽になる」の3項目において、就業の量が多い会員の方が、「あてはまる」という回答に変化していました。

図2 2年前に「あてはまらない」と回答した会員の変化※

男性会員：75歳未満

(n=85~390人 n.s.~***)



※カイ二乗検定

n.s. P \geq 0.05(差なし), *P<0.05(差あり), **P<0.01(差あり), ***P<0.001(差あり)

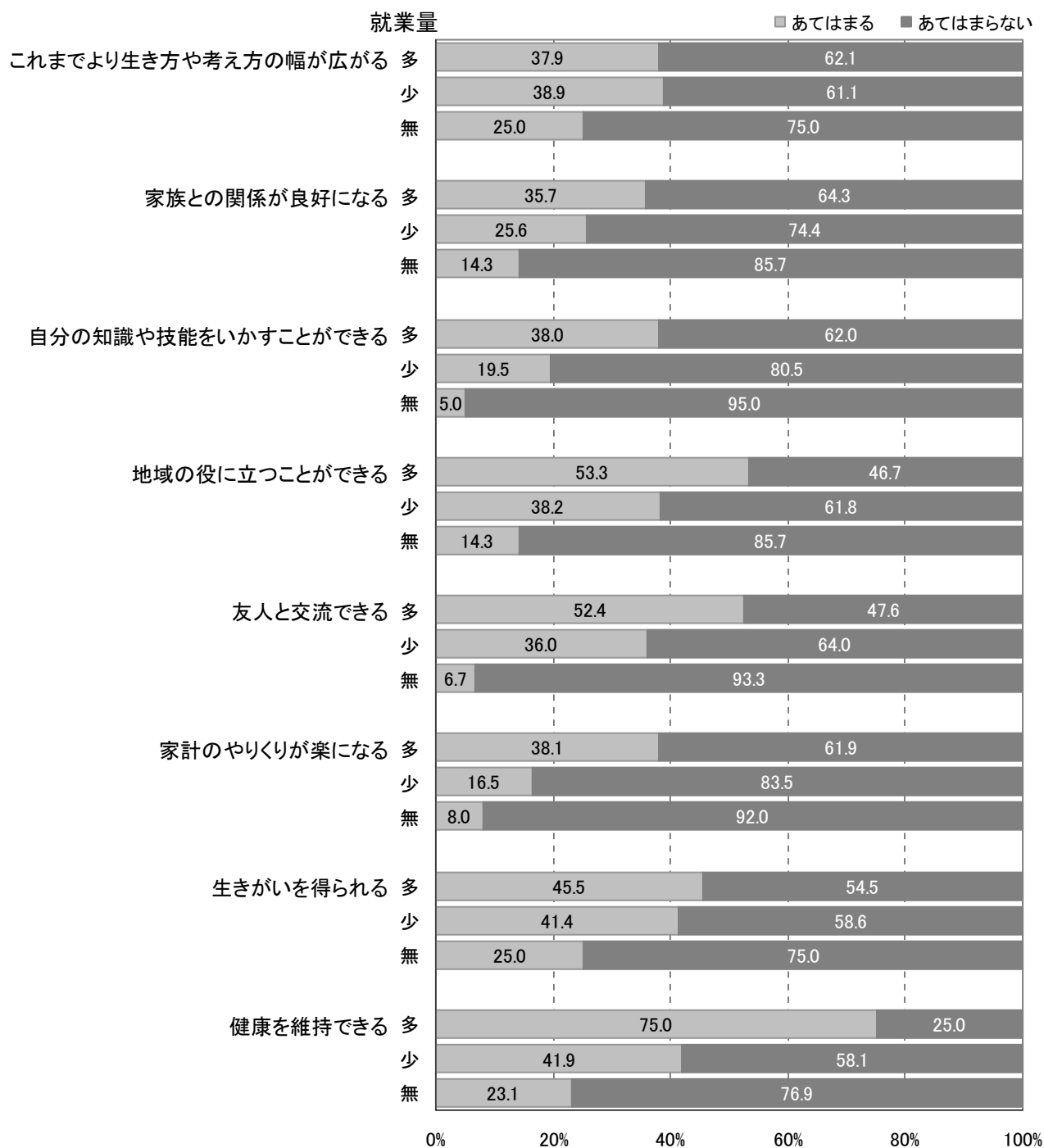
2年前（第3回）に「あてはまらない」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳以上の男性会員について分析した結果、「自分の知識や技能をいかすことができる」「友人と交流できる」「家計のやりくりが楽になる」「健康を維持できる」の4項目において、就業の量が多い会員の方が、「あてはまる」という回答に変化していました。

図3 2年前に「あてはまらない」と回答した会員の変化*

男性会員：75歳以上

(n=52~215人 n.s.~***)



※カイ二乗検定

n.s. P \geq 0.05(差なし), *P<0.05(差あり), **P<0.01(差あり), ***P<0.001(差あり)

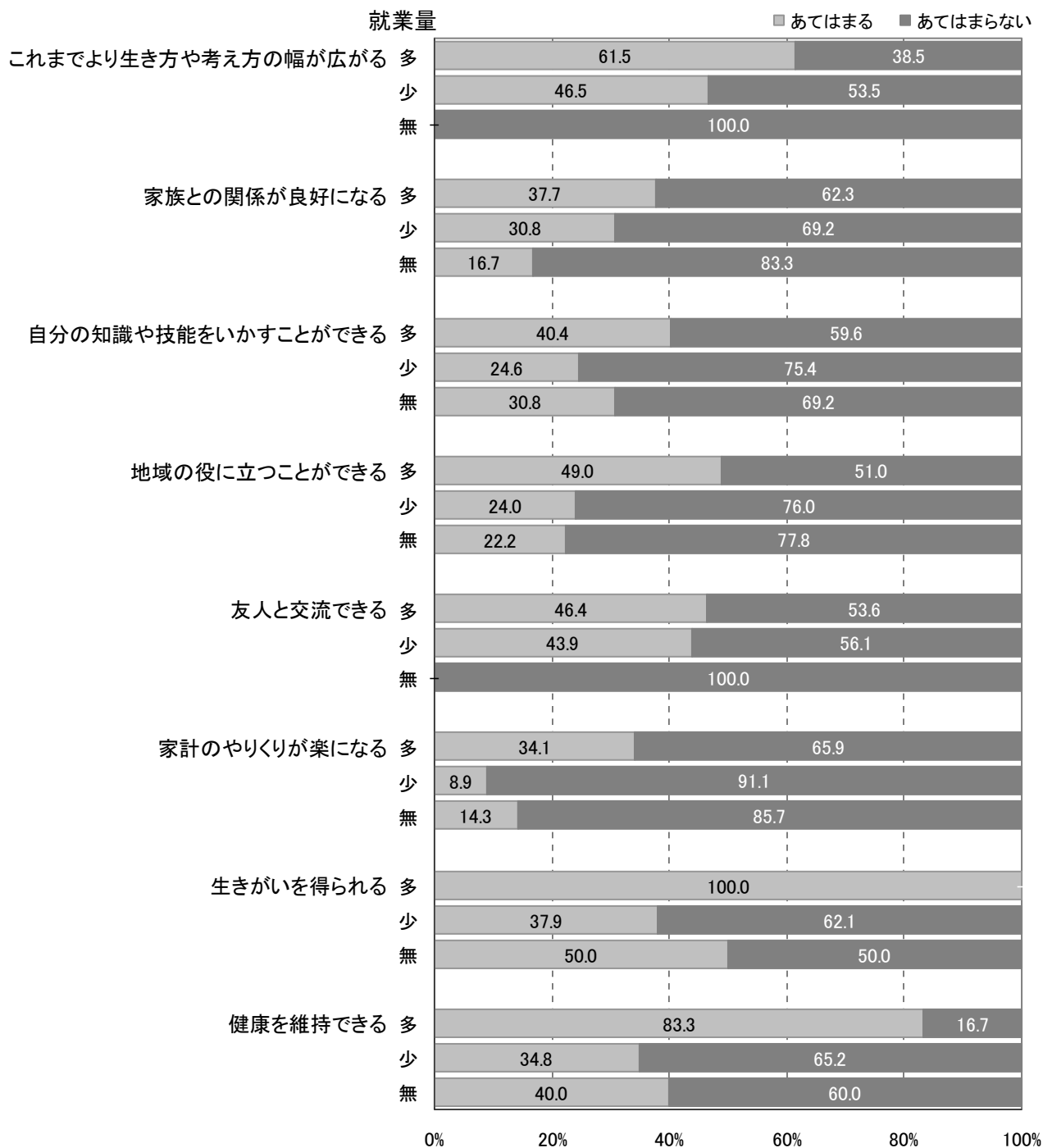
2年前（第3回）に「あてはまらない」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳未満の女性会員について分析した結果、「地域の役に立つことができる」「家計のやりくりが楽になる」の2項目において、就業の量が多い会員の方が、「あてはまる」という回答に変化していました。

図4 2年前に「あてはまらない」と回答した会員の変化※

女性会員：75歳未満

(n=34~134人 n.s.~***)



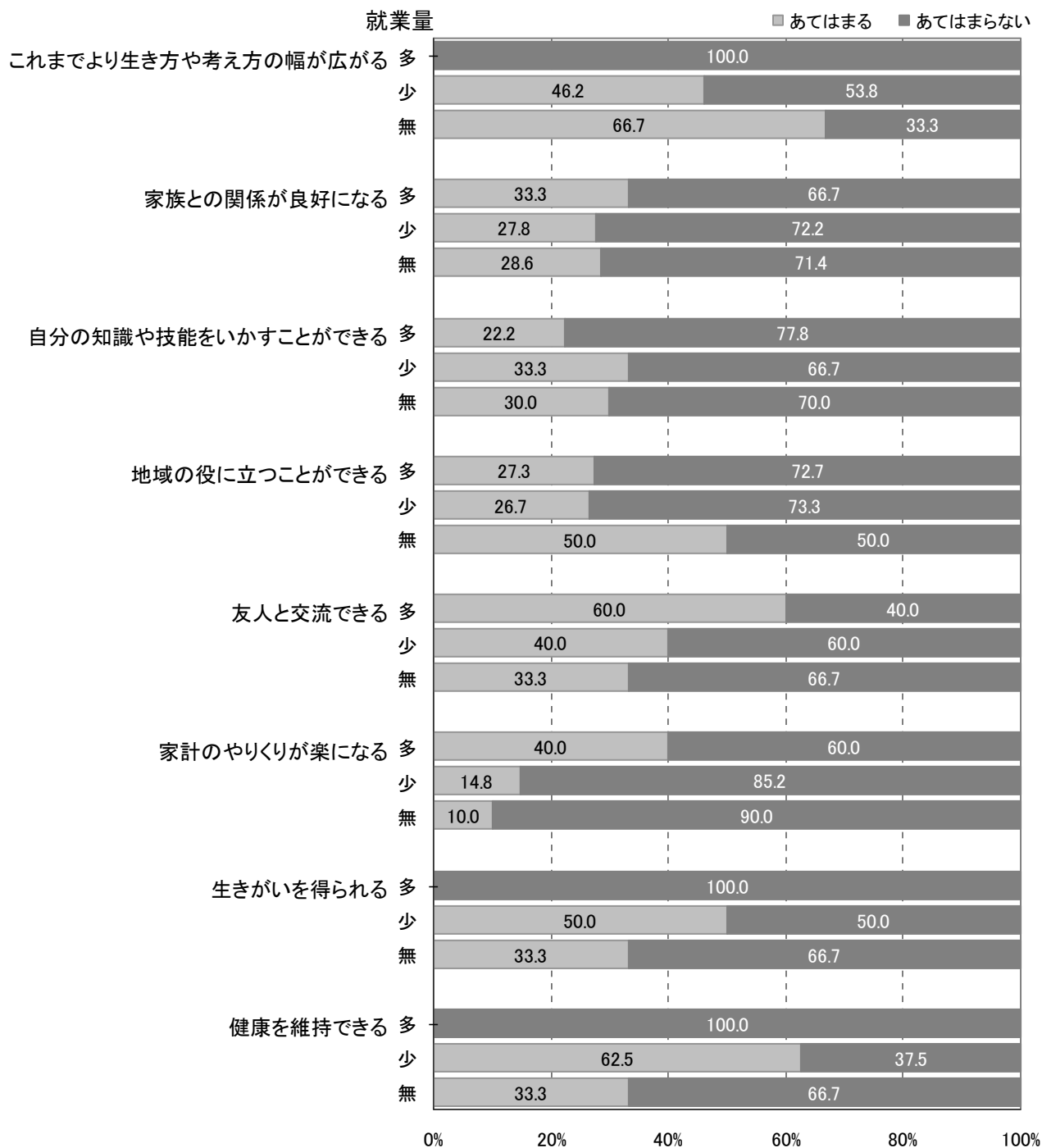
2年前（第3回）に「あてはまらない」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳未満の女性会員について分析した結果、「家計のやりくりが楽になる」の項目において、就業の量が多い会員の方が、「あてはまる」という回答に変化していました。

図5 2年前に「あてはまらない」と回答した会員の変化*

女性会員：75歳以上

(n=12~52人 n.s.~**)



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

2) 「あてはまる」と回答した会員の変化

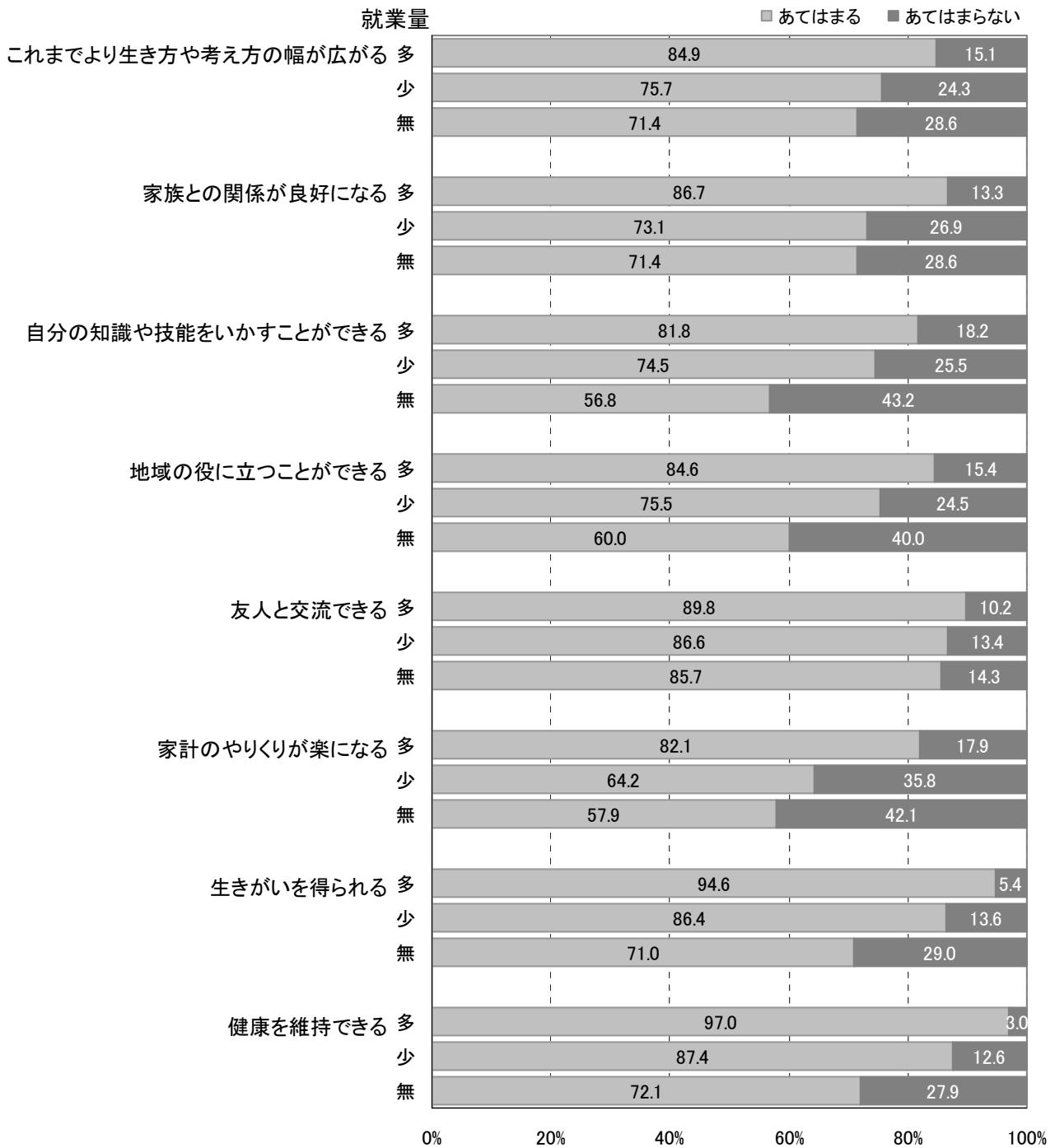
2年前（第3回）に「あてはまる」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

会員全体について分析した結果、すべての項目で、就業している会員の方が、統計的に有意に今回も「あてはまる」と回答していました。

図 6 2年前に「あてはまる」と回答した会員の変化*

会員全体

(n=589~1,218人**~***)



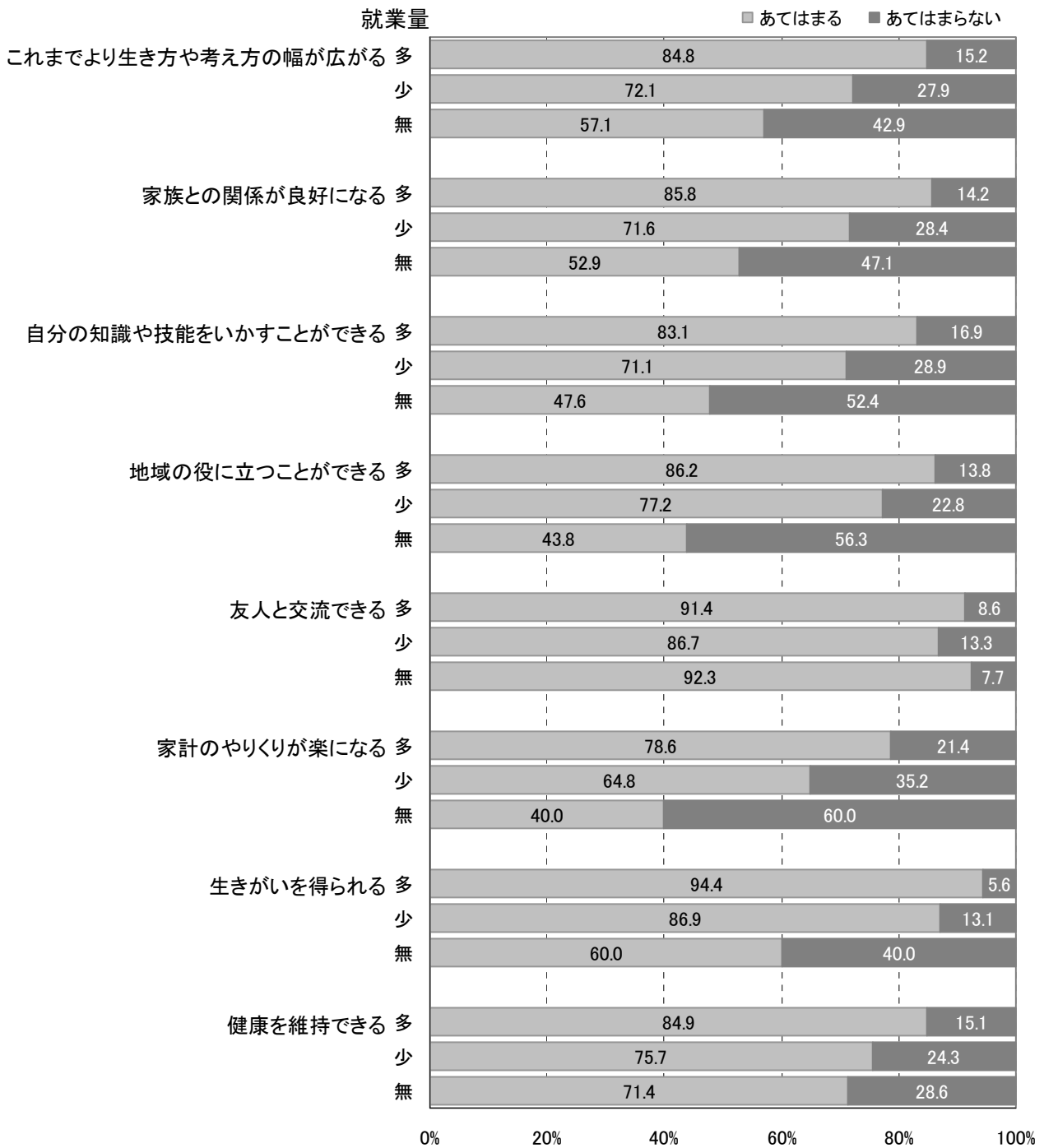
2年前（第3回）に「あてはまる」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳未満の男性会員について分析した結果、「友人と交流できる」の項目以外のすべての項目で、就業している会員の方が、統計的に有意に今回も「あてはまる」と回答していました。

図7 2年前に「あてはまる」と回答した会員の変化*

男性会員：75歳未満

(n=307~993人 n.s.~***)



※カイ二乗検定

n.s. P \geq 0.05(差なし), *P<0.05(差あり), **P<0.01(差あり), ***P<0.001(差あり)

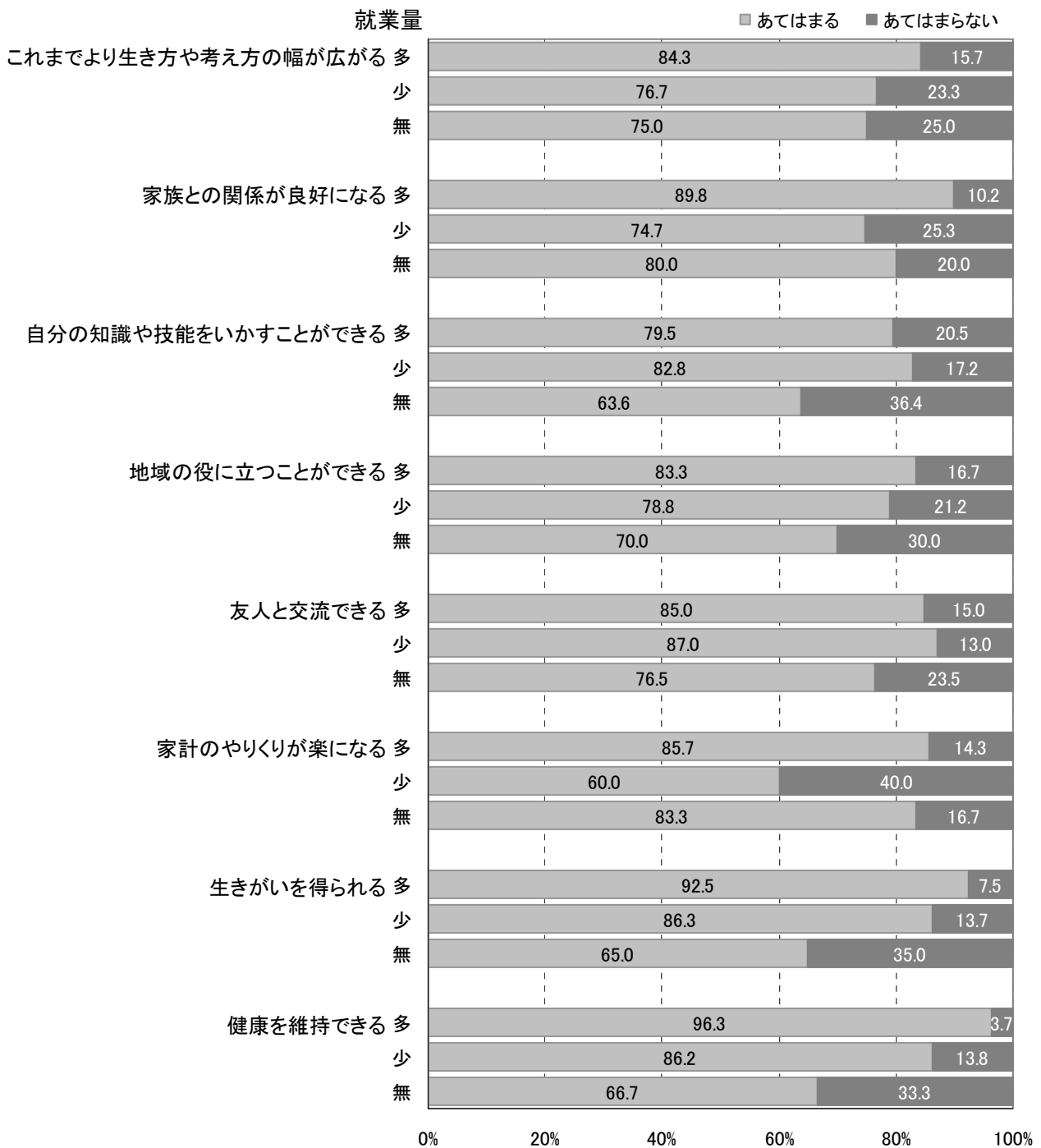
2年前（第3回）に「あてはまる」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳以上の男性会員について分析した結果、「生きがいを得られる」「健康を維持できる」の2項目において、就業の量が多い会員の方が、統計的に有意に今回も「あてはまる」と回答していました。また、「家計のやりくりが楽になる」の項目においては、就業の多い会員と就業の無い会員が、就業の少ない会員よりも統計的に有意に「あてはまる」と回答していました。

図8 2年前に「あてはまる」と回答した会員の変化*

男性会員：75歳以上

(n=156~325人 n.s.~***)



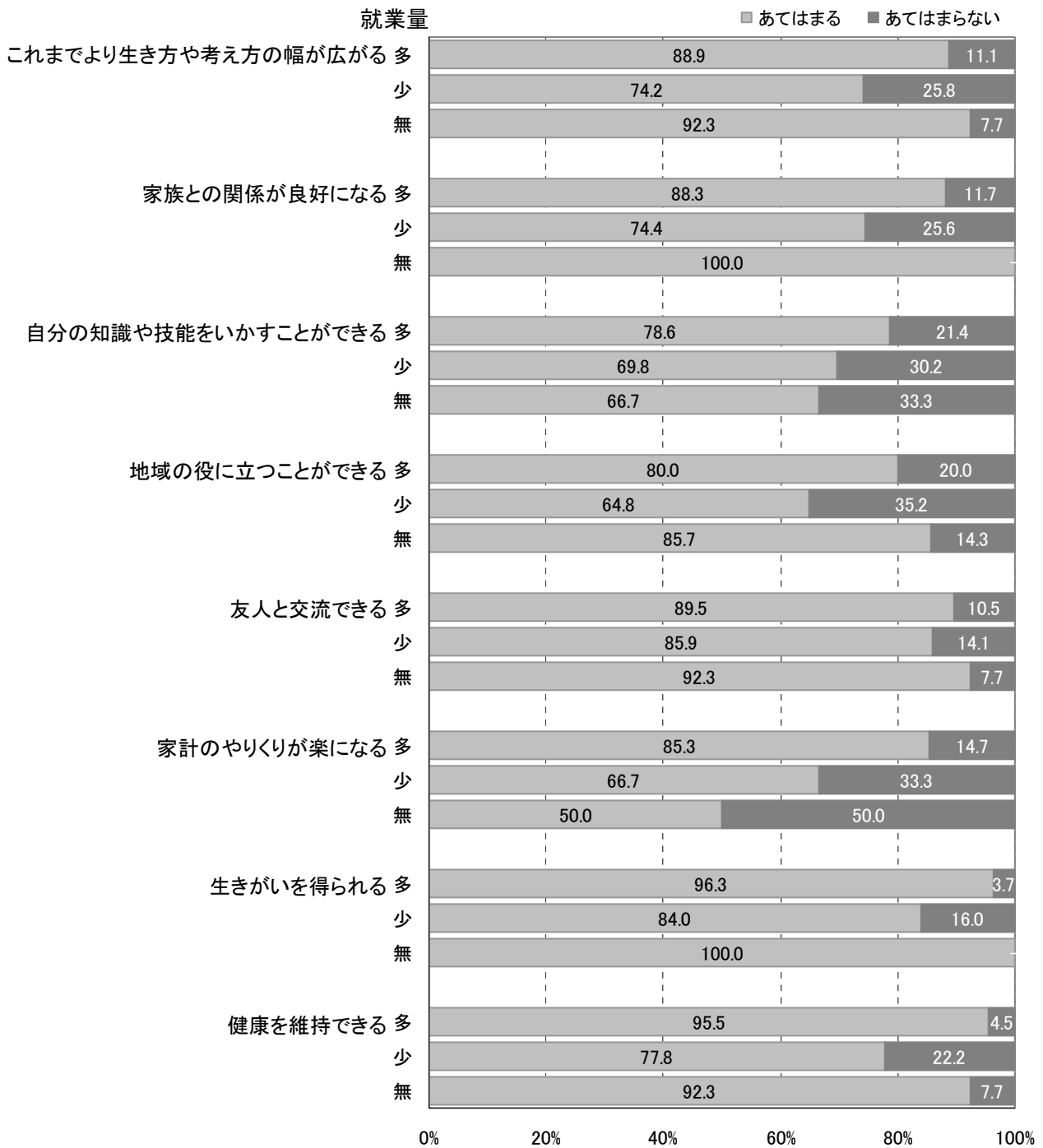
2年前（第3回）に「あてはまる」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳未満の女性会員について分析した結果、「家計のやりくりが楽になる」「生きがいを得られる」「健康を維持できる」の3項目において、就業の量が多い会員の方が、統計的に有意に今回も「あてはまる」と回答していました。

図9 2年前に「あてはまる」と回答した会員の変化*

女性会員：75歳未満

(n=101~205人 n.s.~***)



※カイ二乗検定

n.s. P \geq 0.05(差なし), *P<0.05(差あり), **P<0.01(差あり), ***P<0.001(差あり)

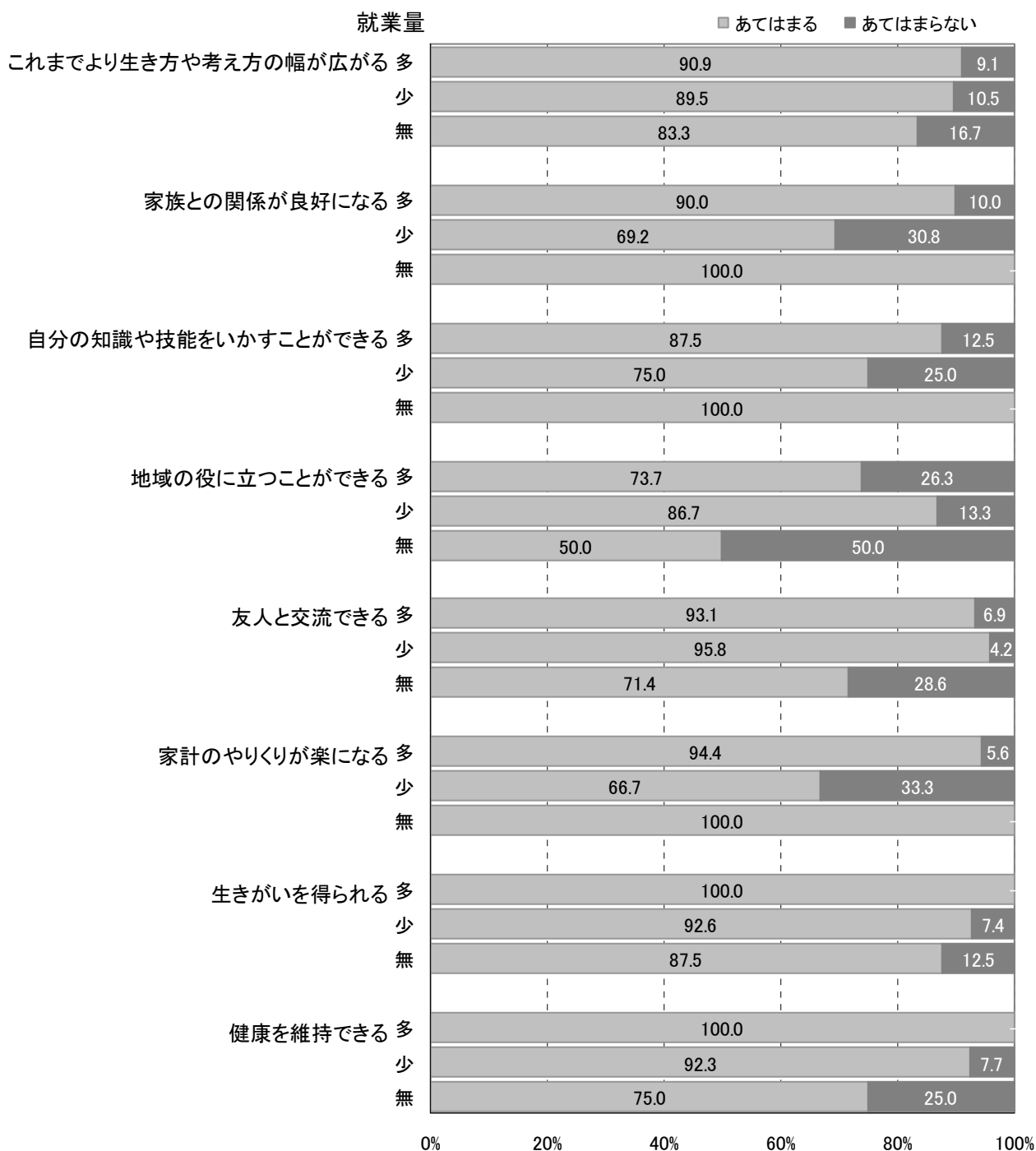
2年前（第3回）に「あてはまる」と回答した会員について、現在（第5回）どう感じているか2年間の就業の量と比較しました。

75歳以上の女性会員について分析した結果、いずれの項目も、就業の量と回答に有意な関連はみとめられませんでした。

図 10 2年前に「あてはまる」と回答した会員の変化*

女性会員：75歳以上

(n=25~68人 n.s.)



4. 就業量別にみた会員の変化

今回は、会員活動による介護予防の効果を検討するために、第1回（平成18年1月）と第5回（平成22年1月）の両方のアンケートへの回答結果をもとに分析しました。分析は、要介護状態への移行の危険性を示すとされる複数の指標において、4年前と比較して「改善・維持した人」と「悪化した人」に分けた上で、平成18年1月から平成21年12月までの就業の程度との関係を検討しました。

1) 就業量別にみた会員の介護状態となる危険性の変化

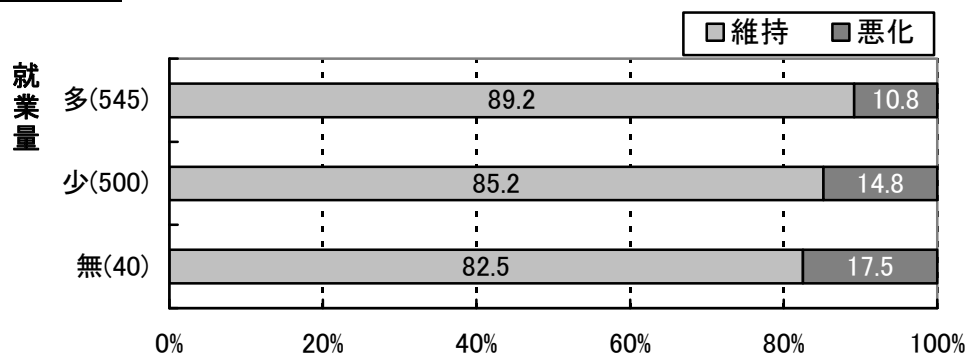
4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の介護状態となる危険性の関係をみました。

会員全体について分析した結果、就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持している様子が示されました。（今回の結果では、統計的な差はみとめられませんでした。）

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果、男性会員において、就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持している傾向がありました。（今回の結果では、統計的な差はみとめられませんでした。）女性会員においては、就業量と介護状態となる危険性との関連はみとめられませんでした。

図 11 4年前に介護状態となる危険性があらわれていなかった会員の変化*

会員全体 (n=1,085人 n.s.)



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 12 4年前に介護状態となる危険性があらわれていなかった会員の变化※
 男性会員：75歳未満 (n=512人 n.s.)

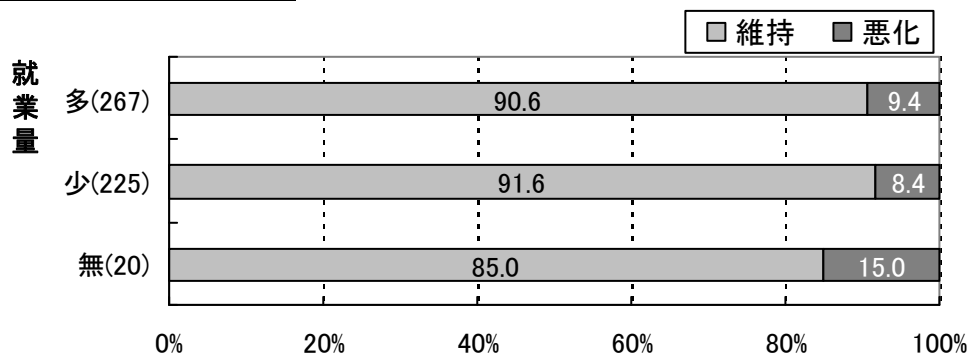


図 13 4年前に介護状態となる危険性があらわれていなかった会員の变化※
 男性会員：75歳以上 (n=334人 n.s.)

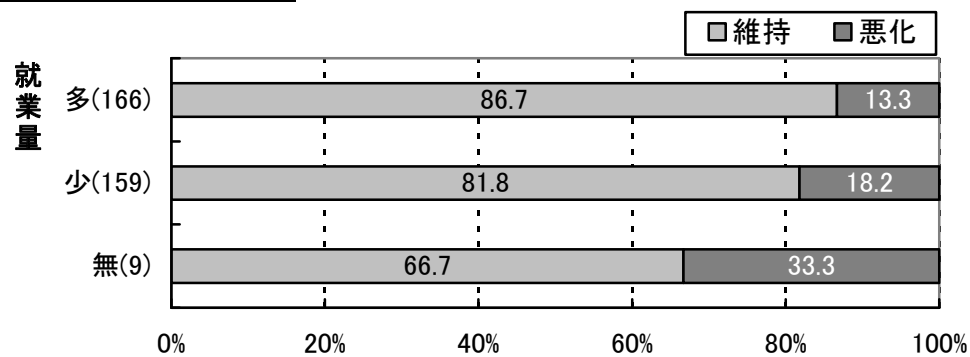


図 14 4年前に介護状態となる危険性があらわれていなかった会員の变化※
 女性会員：75歳未満 (n=174人 n.s.)

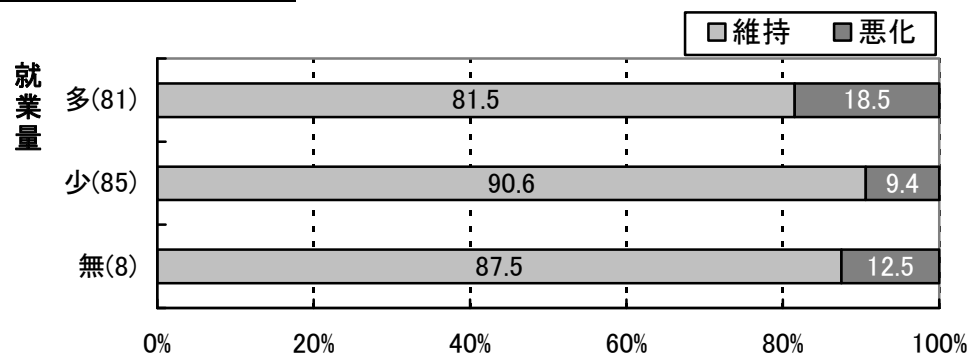
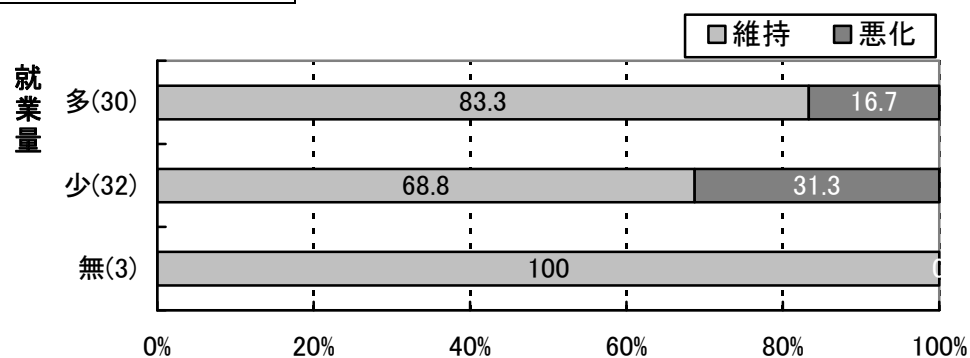


図 15 4年前に介護状態となる危険性があらわれていなかった会員の变化※
 女性会員：75歳以上 (n=65人 n.s.)



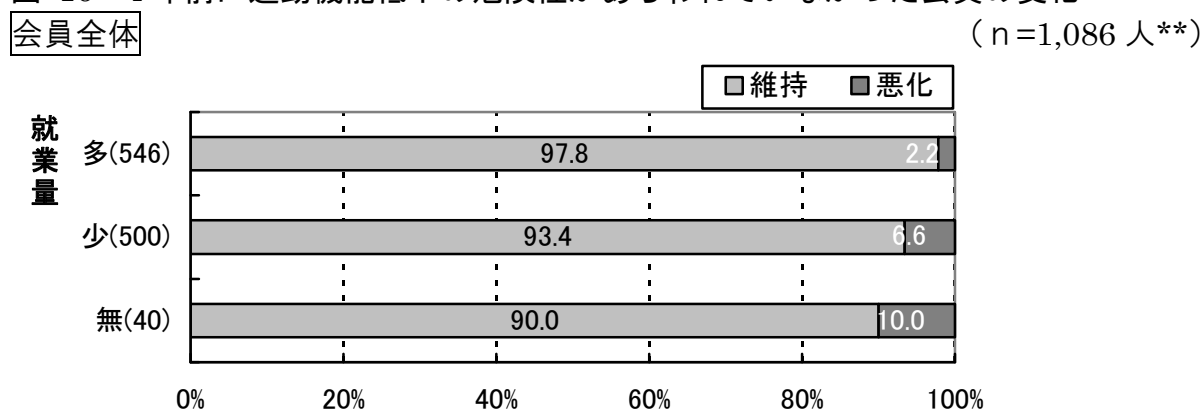
2) 就業量別にみた会員の運動機能低下の危険性の変化

4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性および運動機能低下の危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の運動機能低下の危険性の関係をみました。

会員全体について分析した結果、就業している会員の方が就業していない会員に比べて統計的に有意に4年前の状態を維持していました。

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果、男性会員において、統計的に有意に就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持していました。女性会員においては、就業量と運動機能低下の危険性との関連はみとめられませんでした。

図 16 4年前に運動機能低下の危険性があらわれていなかった会員の変化*



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 17 4 年前に運動機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 男性会員：75 歳未満 (n=512 人*)

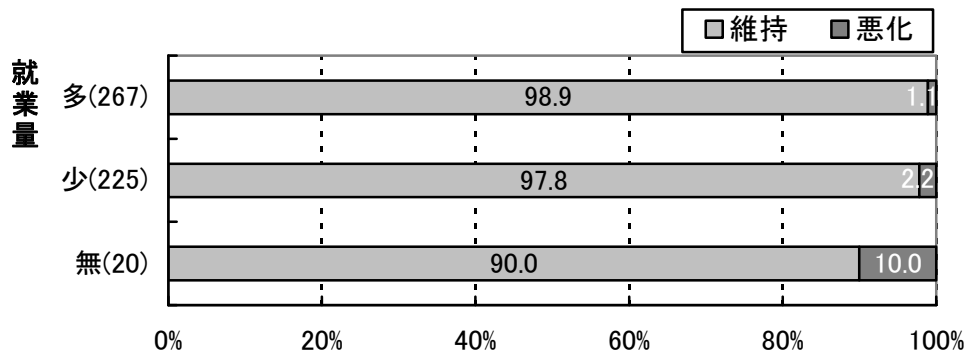


図 18 4 年前に運動機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 男性会員：75 歳以上 (n=335 人**)

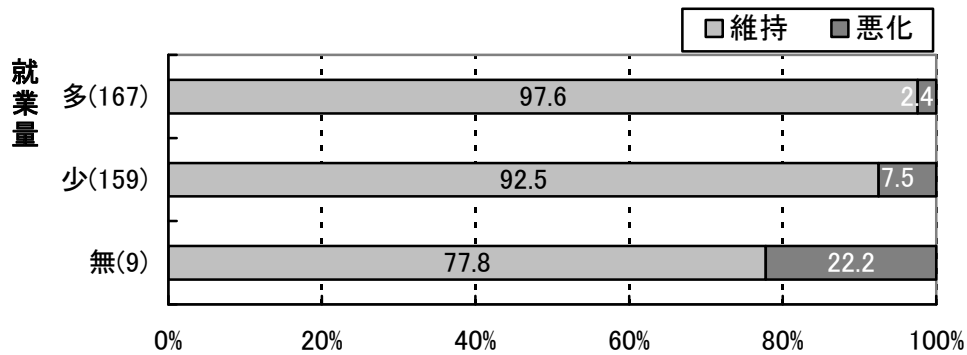


図 19 4 年前に運動機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 女性会員：75 歳未満 (n=174 人 n.s.)

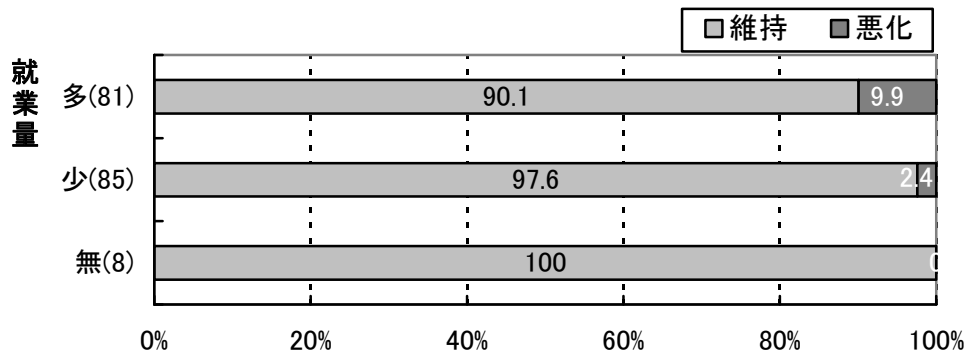
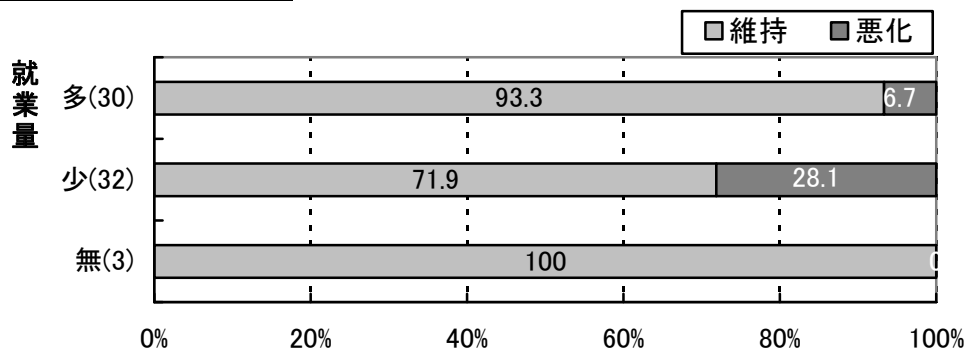


図 20 4 年前に運動機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 女性会員：75 歳以上 (n=65 人 n.s.)



3) 就業量別にみた会員の低栄養の危険性の変化

4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性および低栄養の危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の低栄養の危険性の関係をみました。

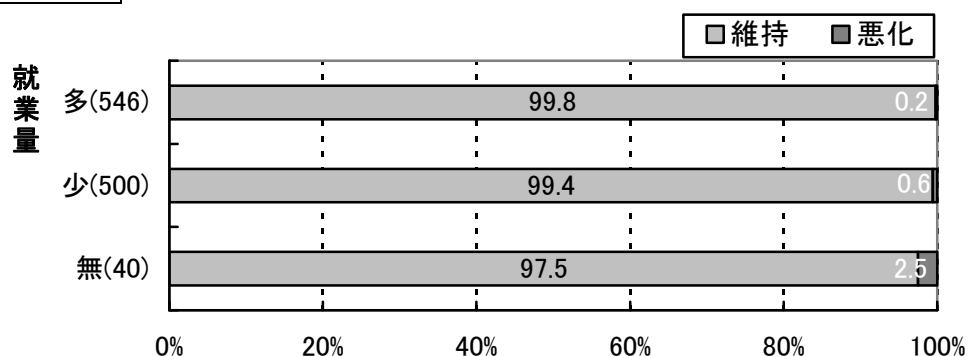
会員全体について分析した結果、就業量と低栄養の危険性との関連はみとめられませんでした。

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果、75歳以上の男性会員において、就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持していました。75歳未満の男性会員においては、就業量と低栄養の危険性との関連はみとめられませんでした。女性会員は就業量に関わらず、全員4年前の状態を維持していました。

図 21 4年前に低栄養の危険性があらわれていなかった会員の変化※

会員全体

(n=1,084人 n.s.)



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 22 4 年前に低栄養の危険性があらわれていなかった会員の变化※

男性会員：75 歳未満

(n=512 人 n.s.)

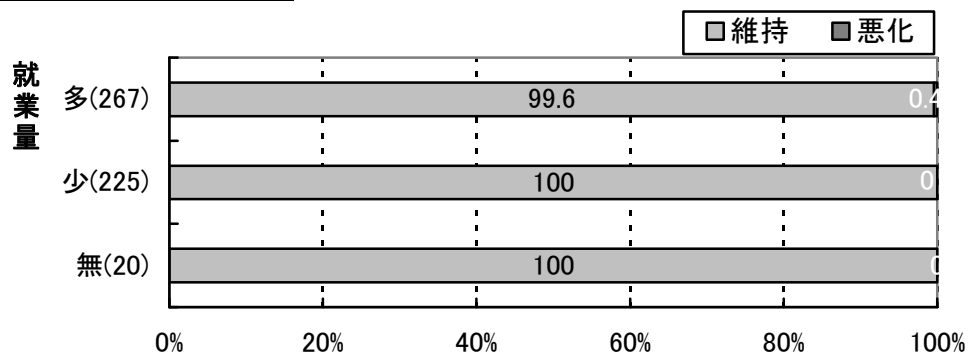


図 23 4 年前に低栄養の危険性があらわれていなかった会員の变化※

男性会員：75 歳以上

(n=333 人*)

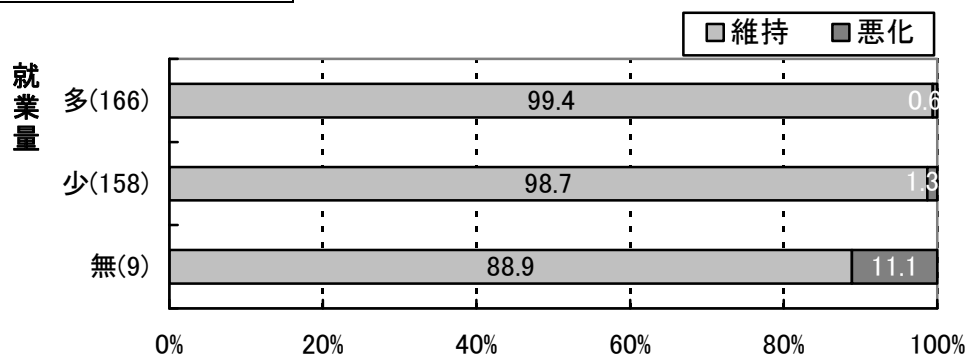


図 24 4 年前に低栄養の危険性があらわれていなかった会員の变化※

女性会員：75 歳未満

(n=174 人)

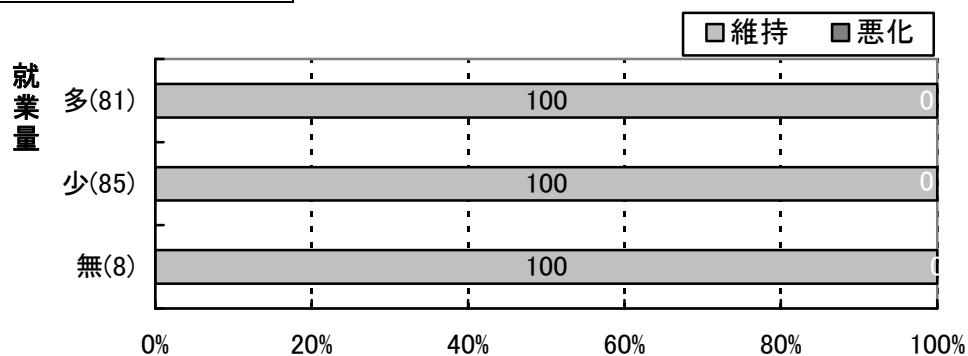
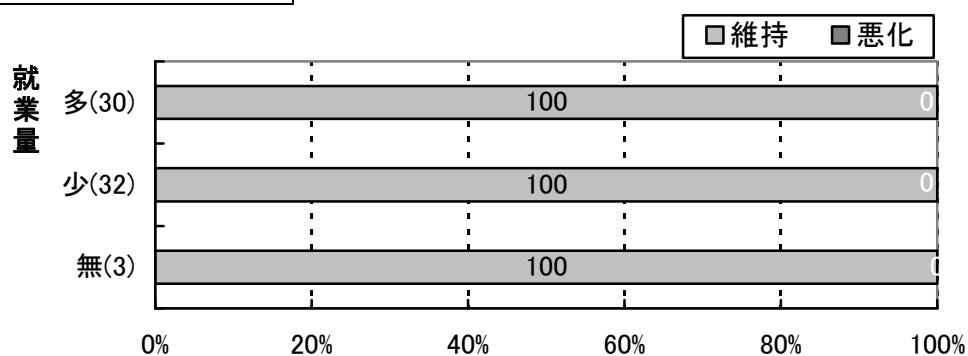


図 25 4 年前に低栄養の危険性があらわれていなかった会員の变化※

女性会員：75 歳以上

(n=65 人)



4) 就業量別にみた会員の口腔機能低下の危険性の変化

4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性および口腔状態の危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の口腔機能低下の危険性の関係をみました。

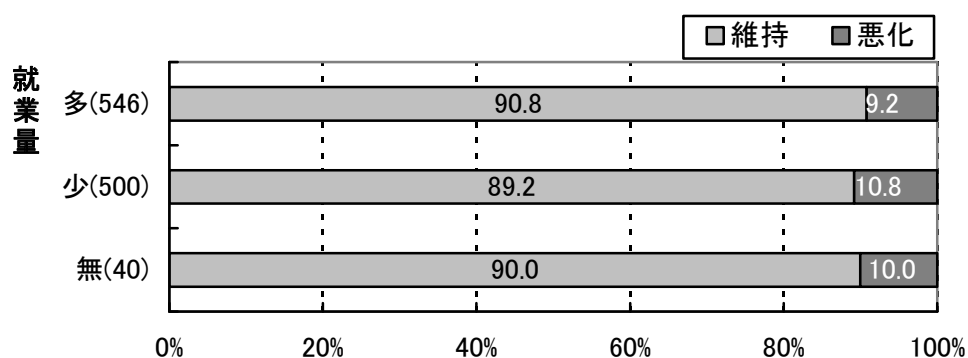
会員全体について分析した結果、就業量と口腔機能低下の危険性との関連はみとめられませんでした。

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果においても、就業量と口腔機能低下の危険性との関連はみとめられませんでした。

図 26 4年前に口腔機能低下の危険性があらわれていなかった会員の変化*

会員全体

(n=1,086人 n.s.)



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 27 4 年前に口腔機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 男性会員：75 歳未満 (n=512 人 n.s.)

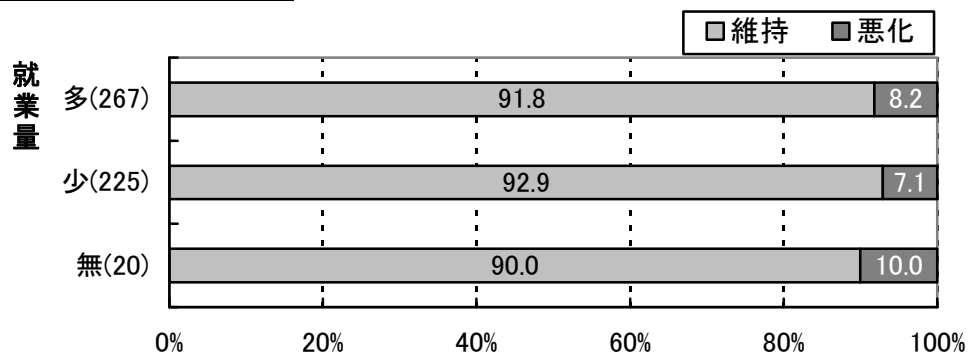


図 28 4 年前に口腔機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 男性会員：75 歳以上 (n=335 人 n.s.)

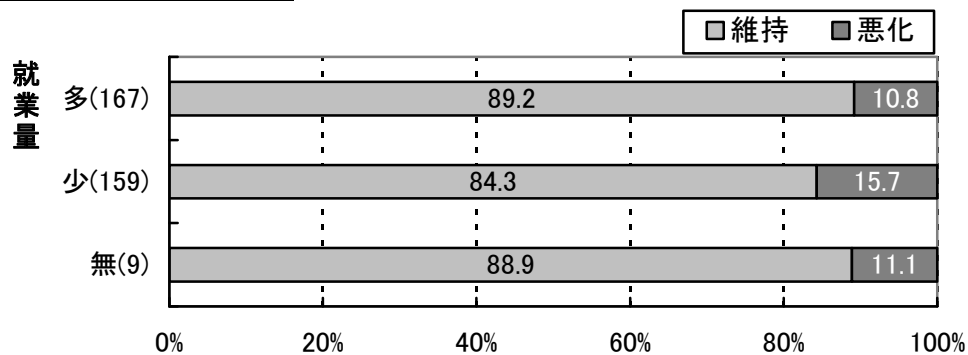


図 29 4 年前に口腔機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 女性会員：75 歳未満 (n=174 人 n.s.)

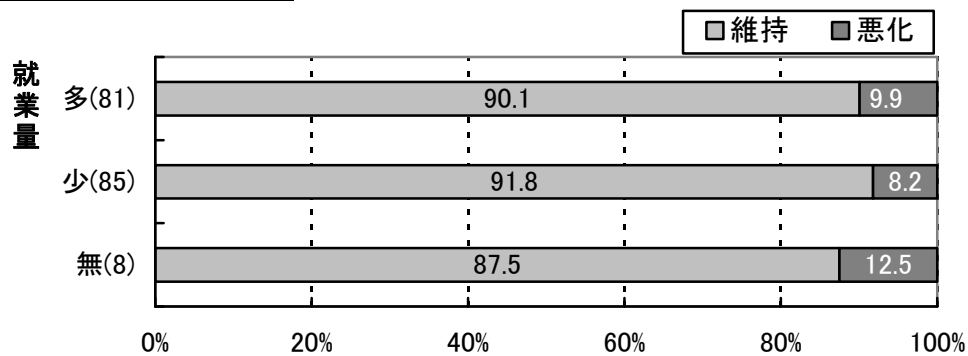
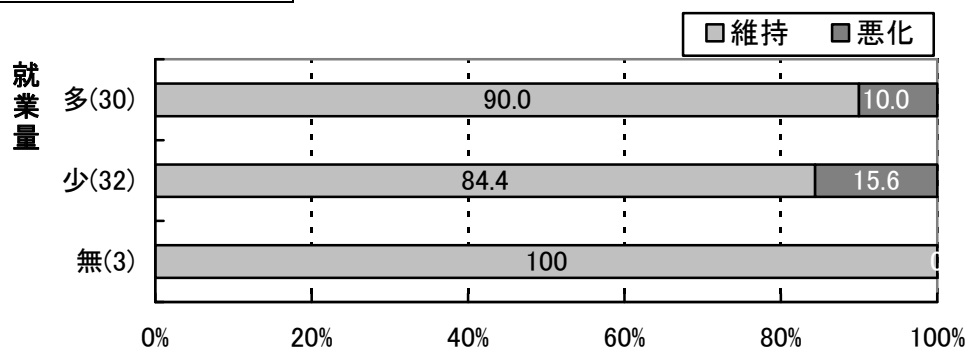


図 30 4 年前に口腔機能低下の危険性があらわれていなかった会員の变化※
 女性会員：75 歳以上 (n=65 人 n.s.)



5) 就業量別にみた会員の閉じこもりの危険性の変化

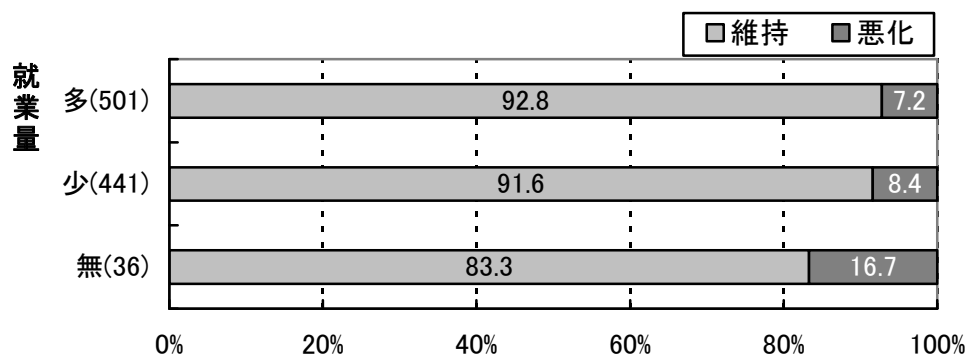
4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性および閉じこもりの危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の閉じこもりの危険性の関係をみました。

会員全体について分析した結果、就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持している様子が示されました。（今回の結果では、統計的な差はみとめられませんでした。）

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果、男性会員および75歳未満の女性会員においては就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持している様子が示されましたが、75歳以上の女性会員においては示されませんでした。（今回の結果では、いずれも統計的な差はみとめられませんでした。）

図 31 4年前に閉じこもりの危険性があらわれていなかった会員の変化※

会員全体 (n=978人 n.s.)



※カイ二乗検定

n.s. P \geq 0.05(差なし), *P<0.05(差あり), **P<0.01(差あり), ***P<0.001(差あり)

図 32 4年前に閉じこもりの危険性があらわれていなかった会員の变化*

男性会員：75歳未満

(n=467人 n.s.)

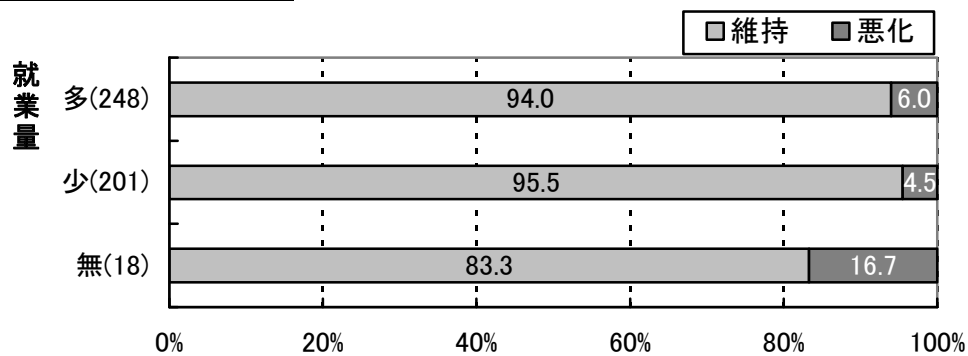


図 33 4年前に閉じこもりの危険性があらわれていなかった会員の变化*

男性会員：75歳以上

(n=292人 n.s.)

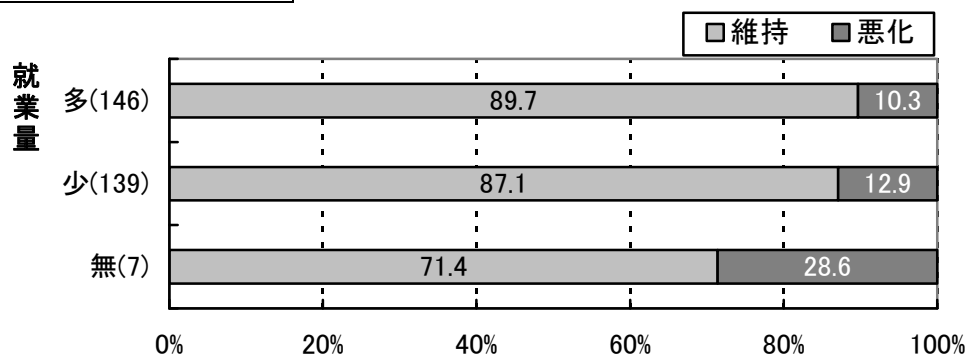


図 34 4年前に閉じこもりの危険性があらわれていなかった会員の变化*

女性会員：75歳未満

(n=163人 n.s.)

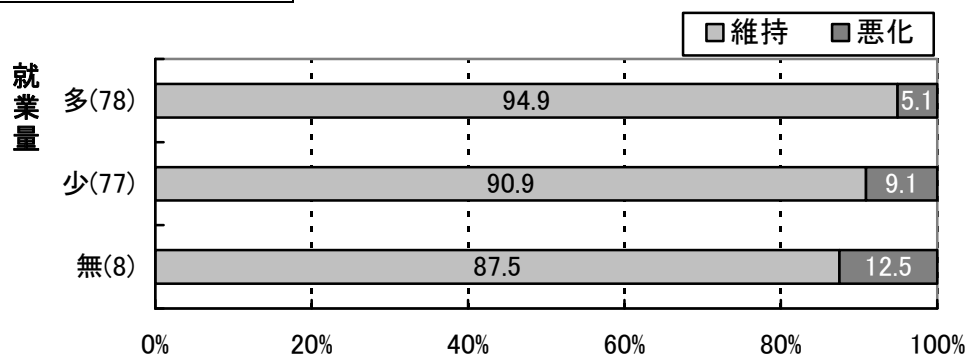
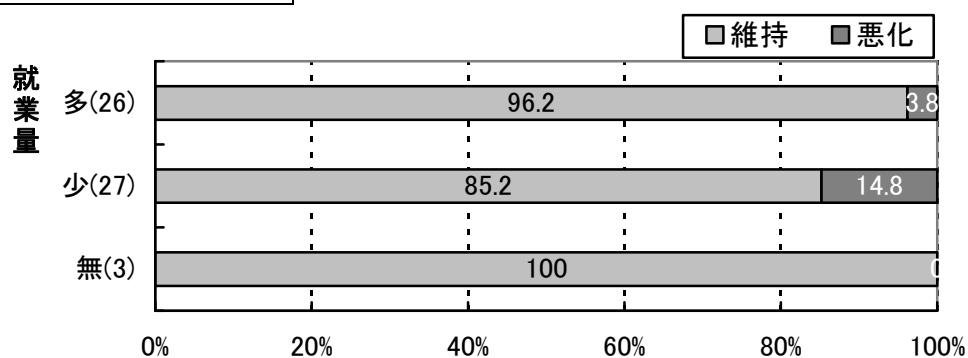


図 35 4年前に閉じこもりの危険性があらわれていなかった会員の变化*

女性会員：75歳以上

(n=56人 n.s.)



6) 就業量別にみた会員の認知症の危険性の変化

4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性および認知症の危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の認知症の危険性の関係をみました。

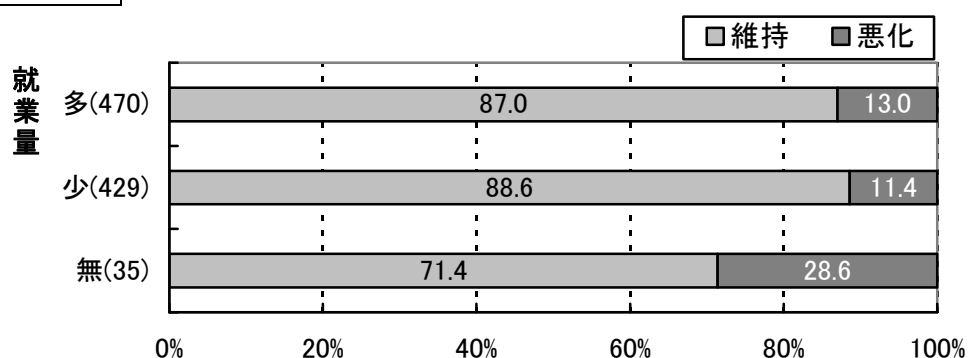
会員全体について分析した結果、就業している会員の方が就業していない会員に比べて統計的に有意に4年前の状態を維持していました。

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果、75歳未満の男性会員および75歳以上の女性会員においては、統計的に有意に就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持していました。75歳以上の男性会員および75歳未満の女性会員においては、就業量と認知症の危険性との関連はみとめられませんでした。

図 36 4年前に認知症の危険性があらわれていなかった会員の変化※

会員全体

(n=934人*)



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 37 4 年前に認知症の危険性があらわれていなかった会員の变化※

男性会員：75 歳未満

(n=438 人*)

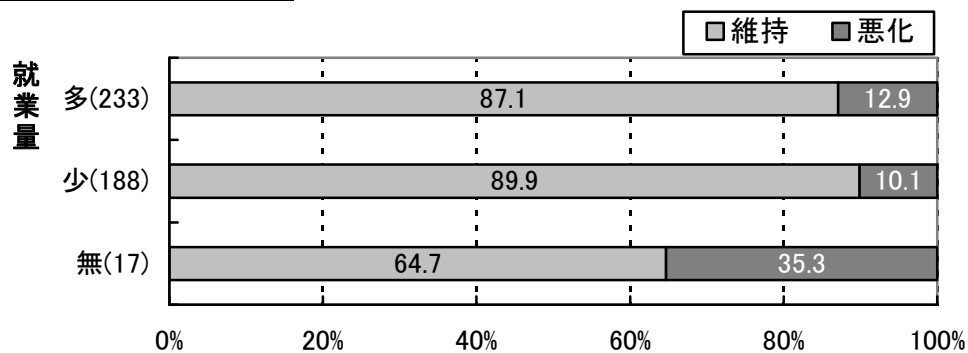


図 38 4 年前に認知症の危険性があらわれていなかった会員の变化※

男性会員：75 歳以上

(n=277 人 n.s.)

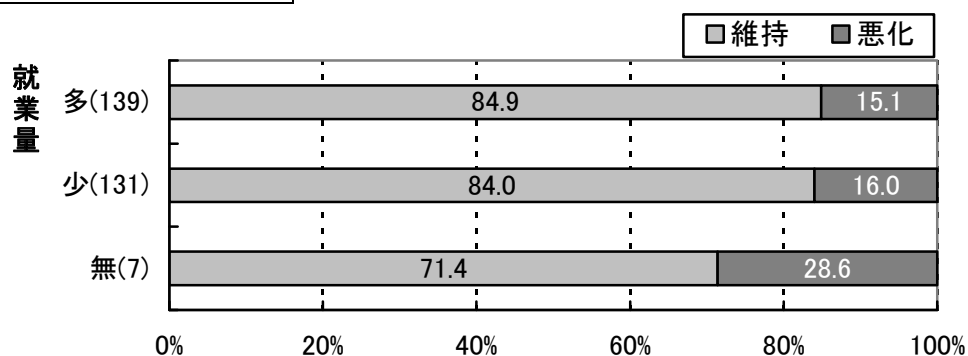


図 39 4 年前に認知症の危険性があらわれていなかった会員の变化※

女性会員：75 歳未満

(n=164 人 n.s.)

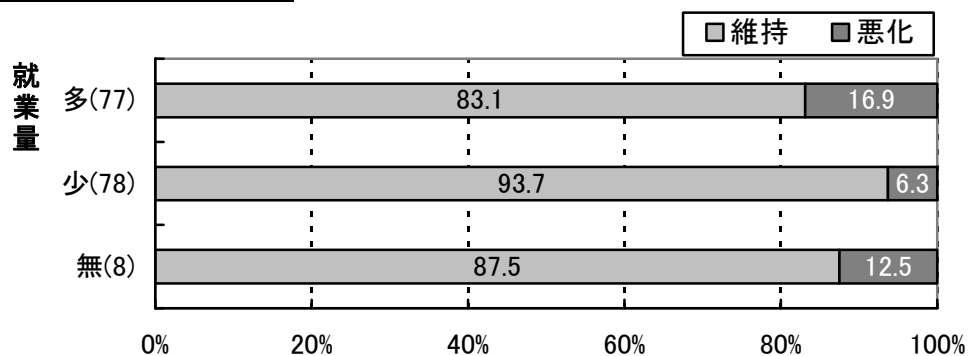
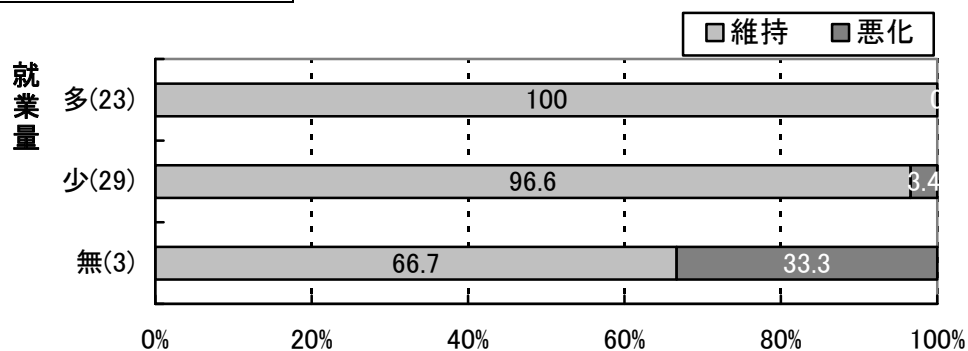


図 40 4 年前に認知症の危険性があらわれていなかった会員の变化※

女性会員：75 歳以上

(n=55 人*)



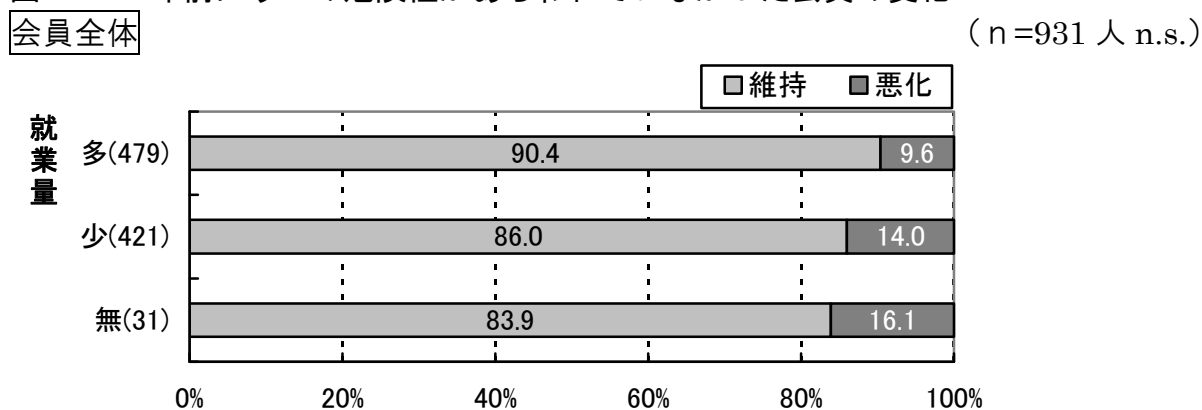
7) 就業量別にみた会員のうつの危険性の変化

4年前（第1回アンケート時）に介護状態となる危険性およびうつの危険性があらわれていなかった会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）のうつの危険性の関係をみました。

会員全体について分析した結果、就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持している様子が示されました。（今回の結果では、統計的な差はみとめられませんでした。）

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果、男性会員において、就業している会員の方が就業していない会員に比べて4年前の状態を維持している傾向がありました。（今回の結果では、統計的な差はみとめられませんでした。）女性会員においては、就業量とうつの危険性との関連はみとめられませんでした。

図 41 4年前にうつの危険性があらわれていなかった会員の変化※



※カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 42 4年前にうつ病の危険性があらわれていなかった会員の変化※

男性会員：75歳未満

(n=450人 n.s.)

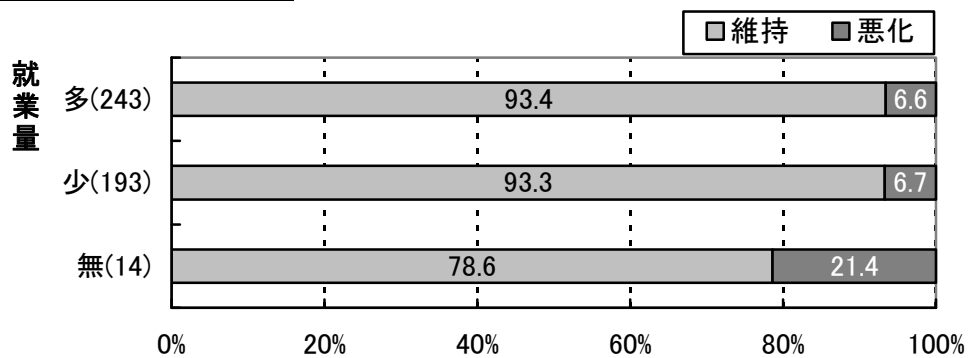


図 43 4年前にうつ病の危険性があらわれていなかった会員の変化※

男性会員：75歳以上

(n=285人 n.s.)

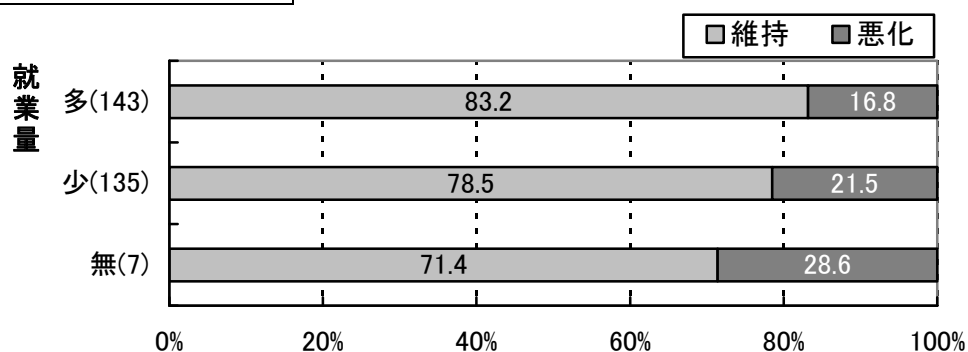


図 44 4年前にうつ病の危険性があらわれていなかった会員の変化※

女性会員：75歳未満

(n=143人 n.s.)

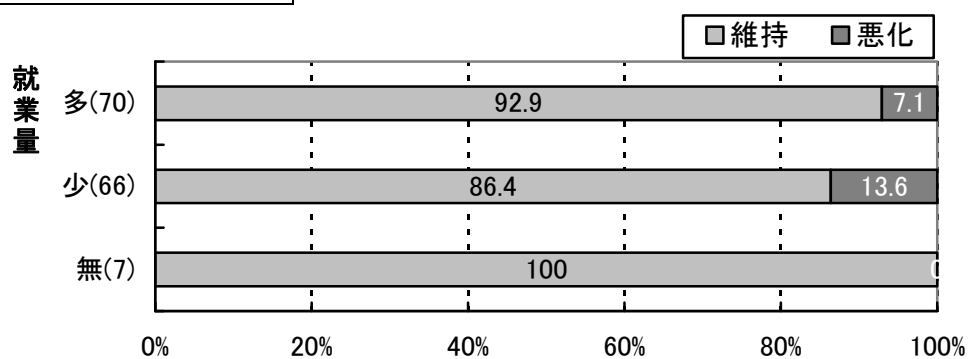
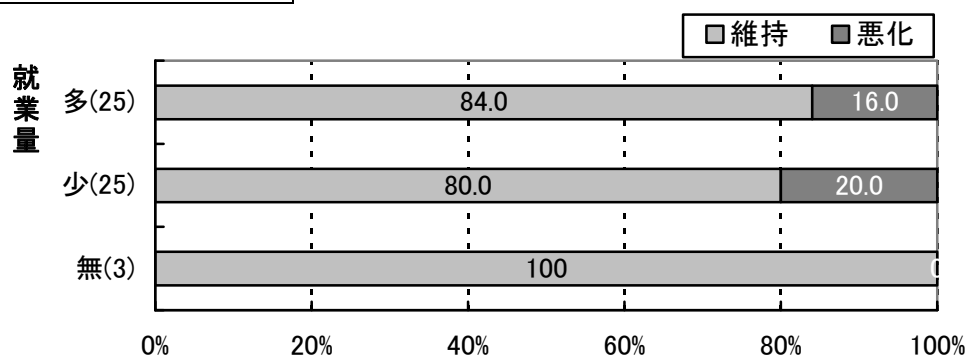


図 45 4年前にうつ病の危険性があらわれていなかった会員の変化※

女性会員：75歳以上

(n=53人 n.s.)



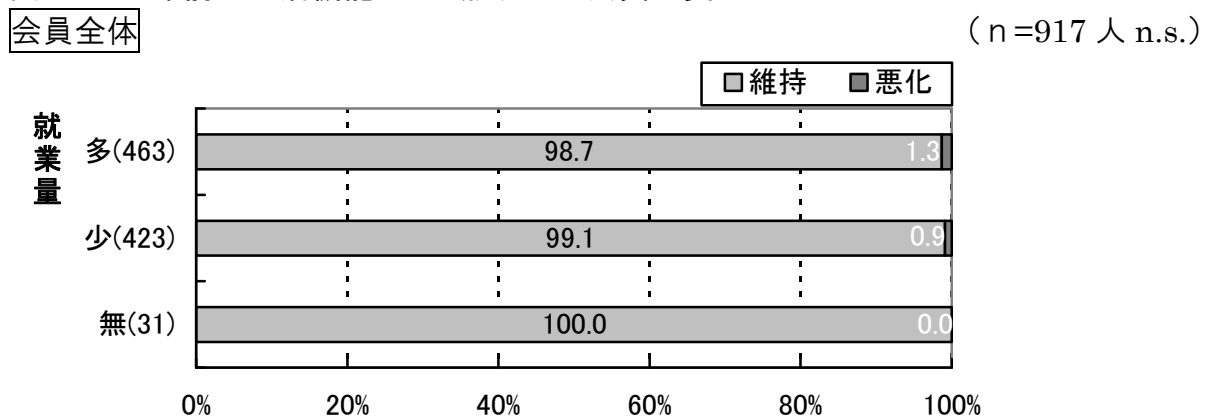
8) 就業量別にみた会員の生活機能の変化^{※1}

4年前（第1回アンケート時）に生活機能が10点以上の会員について、4年間の就業の量と現在（第5回）の生活機能の関係をみました。

対象者全体について分析した結果、就業量と生活機能との関連はみとめられませんでした。

また、男女別に75歳未満の会員と75歳以上の会員を分けて分析した結果においても、就業量と生活機能との関連はみとめられませんでした。

図 46 4年前に生活機能が10点以上の会員の変化^{※2}



※1 生活機能：活動的な日常生活をおくるための生活機能は、老研式活動能力指標（13点満点）を用いて測定しました。10点以上が、地域での自立生活を送る1つの目安とされています。ここでは、4年後に10点以上であれば「維持」、9点以下であれば「悪化」としました。

※2 カイ二乗検定

n.s. $P \geq 0.05$ (差なし), * $P < 0.05$ (差あり), ** $P < 0.01$ (差あり), *** $P < 0.001$ (差あり)

図 47 4年前に生活機能が10点以上の会員の変化※2

男性会員：75歳未満

(n=439人 n.s.)

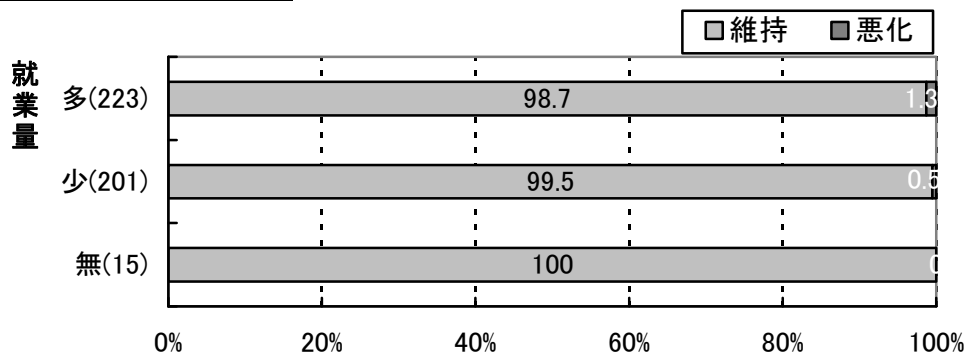


図 48 4年前に生活機能が10点以上の会員の変化※2

男性会員：75歳以上

(n=261人 n.s.)

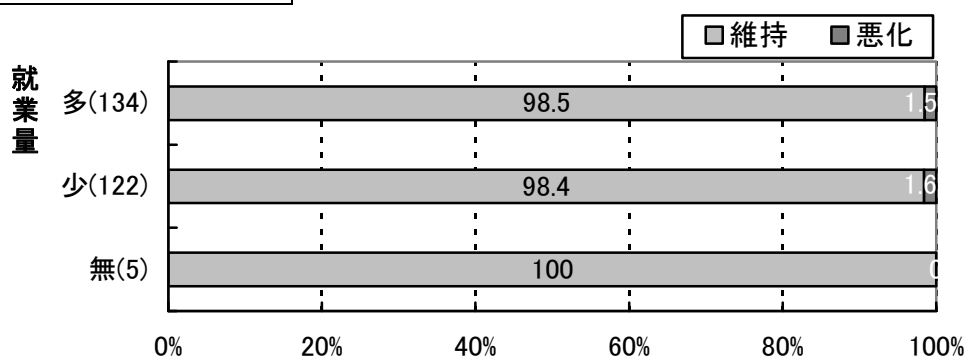


図 49 4年前に生活機能が10点以上の会員の変化※2

女性会員：75歳未満

(n=160人 n.s.)

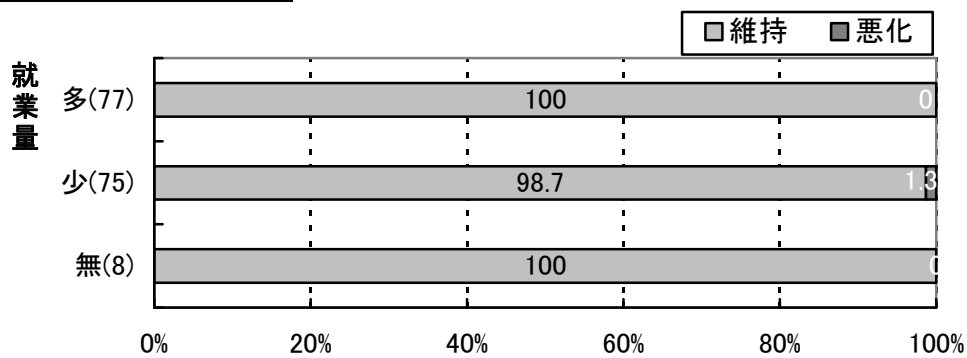
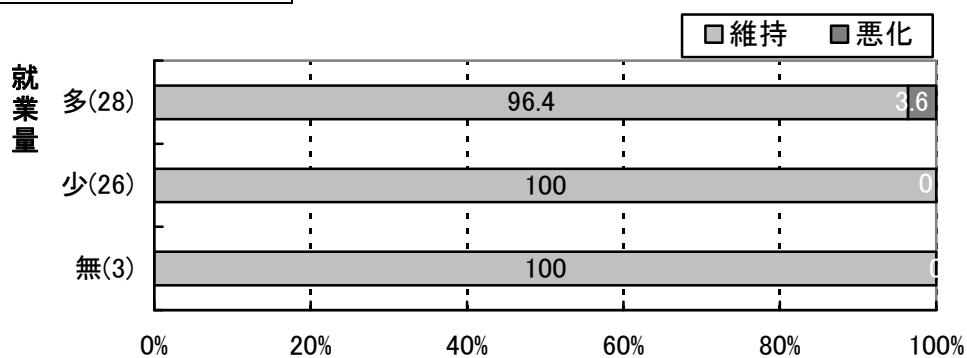


図 50 4年前に生活機能が10点以上の会員の変化※2

女性会員：75歳以上

(n=57人 n.s.)



以上

(分析：ダイヤ高齢社会研究財団)